



平成26年9月25日

卵子凍結から性同一性障害まで 「生殖と性」の現実を知り、考える。 第34回日本性科学会、岡山大学で開催

<概要>

2014年10月11～12日、岡山大学鹿田キャンパス J-Hall で、第34回日本性科学会学術集会を開催します。

「卵子凍結・提供、死後生殖などの生殖医療技術の光と影」「がん患者など各種の疾患を持つ方々の性」「学校で、ジェンダー、生殖医療などの社会的課題を教えることができるか」など、メインテーマ「生殖と性」に沿った議論が展開されます。会員以外の一般市民も学会参加は可能です。

また、一般公開企画（いずれも無料）として、10月10日（金）午後は、公開セミナー「子どもをまもる：風疹・風疹ワクチンの知識」で先天性風疹症候群のお子さんと家族のお話、10月11日（土）午前は、赤ちゃんの生と死を見つめる映画「うまれる」上映会、同日夕方は、「中村 中 ～音楽とトークの夕べ～」を開催の予定です。

岡山大学鹿田キャンパス Junko Fukutake Hall (J-Hall) において、2014年10月11日（土）に第15回日本性科学連合 性科学セミナー、10月12日（日）には第34回日本性科学会学術集会を開催します。

岡山大学は、1998年のジェンダークリニック開設以来、日本有数の「性同一性障害」診療の拠点です。また、2013年には、医学部と農学部とが協力（医農連携）して岡山大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センターを開設し、全国に先駆けて、学士課程での胚培養士（エンブリオロジスト：体外受精などで卵子、精子、胚を取り扱う技術者）養成コースを開講、現役胚培養士のリカレント教育コースを開講しました。

これらを受けて、今回の岡山での学術大会のメインテーマを「生殖と性」としました。会長講演（中塚幹也：岡山大学大学院保健学研究科 教授）では、「卵子提供」「卵子凍結」「性同一性障害」などに関する各種の調査結果を発信し、ともに考えたいと思います。シンポジウムⅠでは、「がん患者、男性不妊患者など各種の疾患を持つ方々の性」について各種の立場から議論します。また、シンポジウムⅡでは、「学校で、デートDV、ジェンダー、生殖医療などの社会的課題を教える」について学生も含めて議論します。さらに、最近、文部科学省の全国調査も行われ、注目されている「性同一性障害の子どもへの支援」についての緊急ワークショップも企画しました。

市民の方々にも、今回のテーマにかかわる各種の社会的課題を知り、考えて頂く機会にしてもらいたいと思い、一般公開企画（参加無料）を準備しています。10月11日（土）の午前中は、映画「うまれる」の上映会（臨床第1講義室）、また、同日夕方は、「中村 中 ～音楽とトークの夕べ～」(J-Hall) を開催します。さらに、10月10日（金）は、公開セミナー「子どもをまもる：風疹・風疹ワクチンの知識」を開催し、先天性風疹症候群(CRS)のお子さんとその家族の患者会「風疹をなくそうの会」『hand in hand』のお話を聞き、一人ひとりができることを考えます。

<お問い合わせ先>

岡山大学大学院保健学研究科

教授 中塚幹也

（電話番号）086-235-6538

（FAX番号）086-235-6538